

IV 総合診療・地域医療特化コースのプログラム

選択科	総合診療・地域医療特化プログラム
研修受け入れ科	総合診療科（地域医療・総合診療実践学寄附講座）
研修プログラムの概要・特徴	<p>【目的】 将来、総合診療や他の専門診療分野の診療に従事する時に、特に熊本県内の様々な地域において活動し貢献できる為に、医師の基本としての幅広いプライマリ・ケア能力の修得、総合診療・地域医療マインドを涵養できる臨床研修プログラムを提供する。</p> <p>【研修の概要】 研修1年目は大学病院での研修を行う。研修2年目は、特に地域医療・総合診療実践学寄附講座教育拠点が設置されている公立玉名中央病院および天草地域医療センターをはじめとした地域の病院や施設で、地域医療及び総合診療を主とした研修を行い、幅広いプライマリ・ケアに関する基本的臨床能力を修得する。</p>
研修の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標概要：様々な患者さんの問題に対して、広く対応できる臨床医になるために、「臨床研修到達目標」のうち、臨床でよく遭遇する症状・病態・疾患を個別に経験し、これらを通して、医療面接、身体診察、医療記録、症例呈示&議論、問題解決能力（臨床推論）など、臨床医としての基礎である「基本的臨床能力」を深めていく。また地域の協力型研修病院では、外来診療、救急診療、入院診療に加え、地域に密着した医療や福祉などに深く関わることで、将来、地域医療に貢献できる基礎を築く。 ・資質・能力：以下の様な日本専門医機構が提唱する総合診療専門医のプログラム整備基準にある「専門研修の成果」の内容を基に、臨床研修の理念や成果に照らし合わせ、更に、研修先の病院や施設等の特性に合わせ、範囲やレベルを絞った設定を行う。 <p>※総合診療専門研修プログラム整備基準「専門研修の成果」（日本専門医機構） 地域を支える診療所や病院においては、他の領域別専門医、一般の医師、歯科医師、医療や健康に関わるその他職種等と連携して、地域の保健・医療・介護・福祉等の様々な分野におけるリーダーシップを発揮しつつ、多様な医療サービス（在宅医療、緩和ケア、高齢者ケア等を含む）を包括的かつ柔軟に提供できる。また、総合診療部門（総合診療科・総合内科等）を有する病院においては、臓器別でない病棟診療（高齢入院患者や心理・社会・倫理的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括ケア、癌・非癌患者の緩和ケア等）と臓器別でない外来診療（救急や複数の健康問題をもつ患者への包括的ケア）を提供することができる。具体的には以下の7つの資質・能力を獲得することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 包括的統合アプローチ 2. 一般的な健康問題に対する診療能力 3. 患者中心の医療・ケア 4. 連携重視のマネジメント 5. 地域包括ケアを含む地域志向アプローチ 6. 公益に資する職業規範 7. 多様な診療の場に対応する能力
研修の方略（スケジュール等）	<p>基本的には、「医師臨床研修指導ガイドライン 2020年度版」に沿った研修を行う。「医師臨床研修指導ガイドライン 2020年度版」の実務研修の方略に定められた研修期間、研修分野・診療科を実施するとともに、研修2年目の選択及び地域医療研修を以下のモデルを参考に設定する。</p> <p>※研修2年目における地域の協力病院でのローテーション例</p>

	<p>地域医療 12週 総合診療科（もしくは総合内科） 12週 小児科 8週 救急 8週 選択 8週</p> <p>研修2年目のローテーションは、原則としてこの様な配分で行う。地域での研修は、複数の施設にまたがる事が可能である。「地域医療」は熊本市以外の地域の中小規模病院や診療所で行うことが望ましい。また「総合診療科」研修は、地域医療・総合診療実践学寄附講座教育拠点が設置された公立玉名中央病院、天草地域医療センターを中心とした、地域中核病院で行うことが望ましいが、大学病院総合診療科での研修も可能である。</p> <p>それ以外のローテーションは、研修1年目における目標達成状況や、協力病院の受け入れ可能状況に応じて、適宜変更ができる。但し上記の研修の目標の趣旨を理解しつつ、臨床研修の到達目標をクリアすることが前提となる。尚、希望する選択診療科によっては、大学病院での研修も可能である。</p> <p>本プログラムの個別の研修分野・診療科における研修方略は、後述する大学病院総合診療科での研修例の内容に準じ、研修先の施設特性に合わせた上で設定する。（詳細は、「総合診療研修プログラム（選択）」のプログラムを参照）</p> <p>※大学病院の総合診療科での研修例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午前中は毎日、指導医の総合診療科外来に陪席（午前9時～）し、指導医と共に、原則として新患者の診療を担当する。医療面接、身体診察、カルテ記載、病状・方針説明、検査オーダー、投薬加療、コンサルテーション、紹介状/返書作成などを行う。 ・午後は「外来レビュー」で午前中の症例の提示・討議を行う。 ・レビューをもとに“Clinical Question”を自ら設定し、学習テーマとし、研修医が主体となって探索を行い、自己学習、レポート作成を行う（「テーマ別研修」）。一日の最後に「振り返り」を行い、学習を深める。 ・研修期間での総まとめとして、研修期間の最後に自由なテーマでの発表を実施する。尚、テーマは「初期研修の到達目標」に準ずる。 ・毎週水曜日の午後は、総合診療科で進めているリサーチミーティングや学会発表に向けての予行演習などにも参加し、学習を深める。 ・医局や大学病院関連あるいはその他研修関連の各種勉強会やカンファレンス等にも適宜参加する。また、必要に応じて医学生への学習支援を行う。 ・ローテーション終了時には、総合診療・地域医療に関するテーマでまとめの発表を行う。 ・大学病院総合診療科での研修の場合、週に1～2日、地域医療・総合診療実践学寄附講座教育拠点のある公立玉名中央病院や天草地域医療センターの総合診療科での並行研修も可能である。
<p>研修の評価</p>	<p>基本的には、「医師臨床研修指導ガイドライン 2020年度版」に沿った研修評価を行う。指導医は、毎週、EPOC2に記載された到達目標の達成度をチェックの上、研修医へフィードバックを行う。目標の到達状況に応じて、次週の目標を適宜修正し設定する。またそれらの進捗については、総括的評価へ向けた情報提供を適宜行う。</p> <p>研修終了時には、熊本大学病院の他の研修プログラムが定める最終発表に準じて総合診療・地域医療に関するテーマでまとめの発表を行う。指導医からの最終的な評価は、研修終了時に研修医評価票に入力される。</p>
<p>研修実施責任者</p>	<p>救急・総合診療部長：松井 邦彦</p>
<p>研修指導責任者 (指導医)</p>	<p>(正) 松井 邦彦 (副) 谷口 純一</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>なし</p>